

	5	4	3		
⑥	①	①	①	問八	問五
支障	胃腸	イ	エ	イ	ア
65	60	55	50	46	43
⑦	②	②	②	問九	問六
停車	訪米	ク	ア	エ	イ
66	61	56	51	47	44
⑧	③	③	③	問十	問七
山腹	金額	キ	ウ	ウ	う
67	62	57	52	48	-----
⑨	④	④	④	問十一	た
垂	党派	オ	オ	それ	-----
68	63	58	53	か	り
⑩	⑤	⑤	⑤	ら	-----
熟	独善	ア	イ	、	-----
69	64	59	54	二	-----
				つ	45
				49	

(配点)

{ ①〔問四〕各3点、〔問五〕各2点、〔問七〕7点、他各5点 }
 { ②〔問二〕各2点、他各5点 }
 { ③④⑤各2点 }

} 計150点

小学六年

国語

解答と解説

2

問一	
B	37
問二	
1	
ア	38
2	
エ	39
3	
イ	40
問三	
ウ	41
問四	
ど	
こ	
で	
も	
、	42

問八	
ウ	34
問九	
エ	35
問十	
イ	36

問七		
ろ	、	自
う	朝	分
。	練	は
	に	大
	は	縄
	参	跳
	加	び
	し	が
	な	で
	く	き
	て	る
	も	の
	い	だ
	い	か
	だ	ら
		30
		31
		32
		33

1

問五	
i	
オ	26
ii	
イ	27
iii	
ウ	28
問六	
自	
信	
を	
失	29

問一	
イ	21
問二	
察	22
し	22
問三	
ウ	23
問四	
④	
イ	24
⑩	
エ	25

〔解説〕

1 工藤純子の「あした、また学校で」から出題しました。

小学六年生の一将は、弟の将人が学校の荻野先生に怒られていたことを同級生の咲良から知らされます。運動が苦手なのに地域の大縄跳び大会に出場することを決めた将人は、大縄跳びが上手ではないのだから朝練に来るようにと荻野先生からきつく言われていたのです。荻野先生から将人のことで話しかけられた一将は、何度も経験していることながら、優秀な兄の秀一と比べられる居心地の悪さを感じています。

問一 B1 関係つけ 比較

① 直前に「そういうこと」とあります。指示語の内容をさかのぼって確認すると、六年生のはじめに一将が咲良に巻きこまれ、いっしょに代表委員になる羽目になったという出来事が語られています。一将は今回もまた咲良のせいではないかと感じていて、イが正解となります。ア「気に入られたがる」、ウ「押しつける」、エ「自分に思いを寄せる」がそれぞれ誤っています。

問二 B1 関係つけ

直前の一将の発言をおさえると、「ああ、あいつ、大縄跳び大会に参加するから」とあります。このことから咲良の話聞いて事情がわかった、という意味の言葉が入ると見当がつきます。これと同じように一将が何かについて「大体の事情はわかった」と感じている場面を探すと、——線⑪の直前に「だいたい察しはついた」とあります。これが探している形と一致します。

問三 B1 理由 比較

「顔を曇らせる」は、いやなことや不安なことがあって気持ちが晴れない様子を表します。咲良は将人が荻野先生に強く怒られているのを見て、それを一将に伝えていきます。咲良はふだんから「将人みたいな弟がほしい」といつてかわいがっていることもあり、「見ててかわいそうなくらい怒られてた」将人の様子を思い出し、いやな気持ちになっているのです。したがって、ウが正解となります。ア「将人が一将からも怒られるかもしれない」、イ「あきれている」、エ「大縄跳びに出ようとしているのを知って」がそれぞれ誤っています。

問四 A1 知識

④ 「尻込み」は、「おそれてためらう」という意味です。したがって、イが正解となります。関連する言葉として「腰が引ける」「二の足を踏む」なども合わせて覚えましょう。⑩「げげんな」は「どういうことかよくわからず不思議に感じる、不審だと思ふ」という意味です。したがって、エが正解となります。

問五 A2 知識 関係つけ

それぞれ次のことばが入ります。
 i 将人は大縄跳びに関して自分が周りから下手だと思われるていることに気づいていない様子です。自分ではむしろ「ぼく、縄跳び得意だから」とまで言っています。したがってオ「にここに」が入ります。
 ii 将人の同級生が将人の描いている絵をばかにして笑っています。したがって、イ「ゲラゲラ」が入ります。

iii 将人をばかにしているところへ急に兄の一将が入ってきて、三人をぎろつとにらみつけています。同級生三人は思っていないかった人物の登場におどろいています。先ほどまのように将人に向かって一方的にえらそうなことを言える状況じょうきょうではなくなっています。したがって、ウ「おどおど」が入ります。

問六 **B1** 具体化 関係づけ

六年生の一将がわざわざ二年生の将人の教室まで行ったのは、強く怒られていたという咲良からの情報で将人のことが心配になったからです。この気持ちは——線⑤の十五行前で、一将の心の声として語られています。字数の条件も合わせると「自信を失ってしまった」という表現が答えであるとわかります。登場人物の気持ちを確認したい時は、その人物の発言や行動に注目してみましょう。

問七 **B2** 具体化 推論

——線⑥に続く場面で一将の「だったら……」に対して将人が「ぼく、できるもんっ」と反論していることをおさえましょう。将人は荻野先生の「できない子は」に対して自分は大縄跳びができるのだと考えているので、自分は早く行く必要がないと考えていることがわかります。それぞれの要素を盛りこんで解答を作りましょう。

※ 設問の指示や字数・文字指定に従したがっていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字だつじが一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点2点とします。

問八 **B1** 関係づけ 比較

荻野先生に将人のことで一言言ってやろうと思いながら、いざ先生が目の前に来ると何も言えなかった、という場面です。先生が目の前に来たことによる「焦り」、結局何も言えなかったことによる「落胆らくたん」、先生が通り過ぎていったことによる「安堵あんど」は確認できますが、「爽快さうかい」という気持ちが表れているところは本文中にありません。したがってウが正解となります。

問九 **B1** 理由 比較

「見えないナイフ」という比喩ひゆが何を指しているかを考えましょう。先生たちは悪気なく秀しゅうと一将や将人を比べ、はっきりと言葉にはしていないものの「お兄ちゃんは優秀だったのに、あなたたちはそれほど優秀ではないのだね」という態度を見せています。こんな風に優秀な兄の秀しゅうといちいち比べられ、あなたたちは劣おとっていると暗に言われることが「見えないナイフ」の正体です。したがって、エが正解となります。ア「それをこえない限り評価するまい」、イ「あまり興味がわかない」、ウ「期待するような」がそれぞれ誤っています。

問十 **B1** 具体化 推論 比較

人物像をつかむ問題です。登場人物の人物像を確認したい時は、その人物の発言や動作を一つ一つついでいねいにおさえ、選択肢せんたくしと照らし合わせましょう。荻野先生は「できない」と感じているのに将人本人は「できる」と感じていることを知って、とまどっていることや、結局言えなかったものの荻野先

生にもう少し将人のことを考えてやってほしいと言おうとしたことなどから、イが正解となります。ア「弟に腹を立てながららも」、ウ「どんな相手にでも自分の思いを包みかくさず言うことのできる」、エ「要領よく生きていく」がそれぞれ誤っています。

2 池内了の「それは、本当に『科学』なの？」から出題しました。科学的であることと科学の違いや、二七科学にひっつかからないためにはどのようなことが大切なのかを論じた文章です。

問一 **B1** 関係つけ **比較**

A から **C** までの空らんに行く部分をよく読むと、筆者は「科学的」という言葉と「科学」という言葉を意図的に使い分けていることがわかります。そこから、「科学的」という言葉が科学のように見えるけれども科学ではないもの、という意味で使われていることがわかります。したがって、直前の「一見すると」から **B** に「科学的」が入ることになります。空らんに入れて読んで確認することを怠らないようにしておきましょう。

問二 **A2** 知識 関係つけ

それぞれ次のことばが入ります。
 1 直前には、血液型の具体例が書かれています。直後には別の具体例としてマイナスイオンの話が続いています。したがって、「また」が入ります。
 2 直前には「科学の知識で対処できない問題には」「別の

論理を持ち込めばいい」という内容があります。ただしこれだけでは少し意味がわかりにくいので、直後にある、科学知の限界を正しく認識し、科学を軽々しく適用せずさまざなな角度から吟味するという具体的な内容にも注目しましょう。この二つは、表現が違うものの前後の内容は同じであると言えます。したがって、「すなわち」が入ります。

3 直前には、中年世代は欲望を爆発させているけれど、若い世代は環境への配慮などを早い段階から考え始めているということが書かれています。直後にはこの部分（欲望の爆発を抑えるという部分）に関しては若い世代に期待しているという内容が書かれています。前の内容が後の内容の理由になっていますから、「だから」が入ります。

問三 **B1** 具体化 **比較**

適当でないものを答える問題であるということをおさえてから考えましょう。本文の最後まで、二七科学とはどういうものか、またそれをどうすれば避けられるのかということが順次説明されています。選択肢の話題となっている内容が本文のどこに出てきているかを考え、照らし合わせて正誤を確認しましょう。ウ「合理的なものの考え方を」とは、不合理も学校教育で見せるべきだという筆者の主張と合いません。

問四 **B1** 具体化 関係つけ

線②八行後に、筆者が「科学」に関する最初のまとめを書いていきます。それによると、「理論と実証によって客観世界・自然世界の普遍的な原理や法則を発見すること」が科

学であると説明されています。ただしそれに続く段落でさらに要件が説明されていますから、それらをすべて読んだうえで答えを考えましょう。本文中の(中略)直前に「これらの要件を満たさないものは科学とは言えない」と書かれており、その「要件」は(中略)五行前に「どこでも、いつでも、誰でも」という言葉でまとめられています。

問五

A2 知識 比較

線③「ない」は「できる」という動詞についてその内容を否定する助動詞です。これと同じものは「なくなる」という動詞を否定しているアの「ない」です。イは「ある(存在している)の反対の意味」になる形容詞の「ない」、ウは「しかたない」で一語の形容詞、エは形容詞について否定の意味をそえる補助形容詞です。

問六

B1 具体化 比較

「疑わしきは罰する」は、本来「疑わしきは罰せず」、すなわち罪を犯したことが確定していない人は無罪としてあつかうという裁判の原則をもとにした表現です。温暖化の真犯人であると確定はしていないが少なくとも関係はあるのだから、念のためCO₂をおさえる方向で動くというのが「疑わしきは罰する」の内容となります。したがって、イが正解となります。ア「疑う態度を取らないよう」、ウ「以外のものを探そうとしない姿勢を厳しく批判」、エ「温暖化の原因になつていると判明した」がそれぞれ誤っています。

問七

B1 関係づけ

直前の「科学者ほど」という言葉と、次の文「科学者ほど自分の科学について疑い続けている人間はいない。」に注目しましょう。科学者は常に物事を疑っているのだという意識をもって「科学者は」「疑う」という内容が同時に出てきている場所を探すと、本文中の(中略)九行前に「科学者というものはうたぐり深い人種だ」という表現が見つかります。

問八

B1 具体化 比較

「時間をもっと無駄に使う」という表現は、同じ段落の「時間が加速している」と対になる表現です。時間が加速するという言葉については、段落中に「一刻も早く結論を得ようとして、簡単に安易な結論に飛びついてしまう」ことであると説明されています。したがって、結論をすぐに得ようとせずじっくり考えるという内容になっているイが正解となります。ア「できるだけ早く結論に到達できるように」、ウ「結論を出すことに役立つかどうかを確認して」、エ「結論を出すまでの時間を短くするべき」がそれぞれ誤っています。

問九

B1 具体化 比較

直前の「そういう意味では」に着目すると、筆者は学校教育で不合理なことをあえて見せ、なぜそうなってしまうのかを考える機会を持つことが大切だと主張していることが読み取れます。したがって、「不合理への免疫」とは、「不合理なこと」にふれ、ある程度慣れた状態を指すのだとわかります。したがって、エが正解となります。ア「ふれる機会を少なく」、イ「合理的なものを見極める」、ウ「区別をしないようにする」

がそれぞれ誤っています。

問十 **B1** 抽象化 比較

このような内容一致の問題では、選択肢の内容が本文のどのあたりの内容をもとにしているかを意識し、必ず本文にもどって正誤を判断するようにしましょう。ア「科学と呼べる部分と」、イ「自然科学における広い知識」、エ「確実な答えを教えてくれるかどうか」がそれぞれ誤っています。また、ウの内容は⑤の一つ前の段落にある「他人任せで自分の考えを放棄してしまつたら、それがどんな内容でも科学ではなくなる。」という内容と一致しています。

問十一 **B1** 関係づけ

ぬけている文をもとにもどす問題です。まずはぬけている文そのものをしっかり読み、できる限りたくさんのヒントを見つけてからもどる場所を探すようにしましょう。「どちらも」からは「もどる場所の直前に複数の『批判の目を欠く』内容がある」ことが読み取れます。また、「科学的思考から遠ざかってしまう」も大きなヒントです。少なくとも筆者が科学的思考だとは考えていないような内容があるところを探しましょう。以上の内容にすべて合っているのは、——線④の九行後です。

3 **A1** 知識

文学史の問題です。作家と作品、できればだいたいのあらすじまでが頭に入っている状態を作りましょう。さらに、おおよその年代までつかめれば文学史に関しては問題ないで

しよう。

4 **A2** 知識

擬音語・擬態語の問題です。今回は○□△□の形（二文字目と四文字目が同じで、一文字目と三文字目はそれぞれがう字）の言葉をあつかいました。答えに使わなかったものもふくめ、どのような場面で使う言葉なのかを確認しておきましょう。